

日商簿記3級 頻出論点だけで合格ライン講座

第4回 追加問題集

決算整理9大論点・関連論点①(決算整理1～4・関連論点1)

動画内の演習よりも問題数を増やし、内容を定着させるための問題集です。各大問は「問題ページ」の直後に「解答・解説ページ」を置いています。動画を見た後、この問題集だけで一通り復習できるように作っています。決算整理5～9・関連論点2の追加問題は第5回の問題集で扱います。

- ・ 大問1 現金過不足・当座借越・貸倒引当金・売上原価の算定(6問)
- ・ 大問2 複合・応用 決算整理まとめ(3問)

大問1

次の決算整理事項を仕訳しなさい。「借方」「貸方」の欄に科目と金額を書き込みましょう。

No	取引	借方	貸方
1	現金過不足の貸方残高3,000円は原因不明のため雑益として処理する		
2	決算にあたり、当座預金が貸方残高8,000円(借越)のため当座借越勘定へ振り替える		
3	売掛金残高300,000円の3%の貸倒れを見積もる(差額補充法、設定前残高2,000円)		
4	得意先が倒産し、売掛金4,000円が回収不能となった(貸倒引当金の残高は6,000円)		
5	得意先が倒産し、売掛金8,000円が回収不能となった(貸倒引当金の残高は6,000円)		
6	売上原価を仕入勘定で算定する(期首棚卸高15,000円、期末棚卸高18,000円)		

大問1 解答・解説

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金過不足	3,000	雑益	3,000
2	当座預金	8,000	当座借越	8,000
3	貸倒引当金繰入	7,000	貸倒引当金	7,000
4	貸倒引当金	4,000	売掛金	4,000
5	貸倒引当金	6,000	売掛金	8,000
	貸倒損失	2,000		
6	仕入	15,000	繰越商品	15,000
	繰越商品	18,000	仕入	18,000

- 現金過不足は貸方に3,000円残っている →
反対側の借方に切ってゼロにし、相手科目は貸方なので雑益(収益の発生=貸方)
- 当座預金のマイナス8,000円をゼロに戻し、同額を当座借越(負債)として計上する
- 見積額=300,000×3%=9,000。すでに2,000円あるので、差額の7,000円だけを追加計上する
- 引当金残高6,000円≧貸倒額4,000円 → 引当金の範囲内でおさまるので、貸倒引当金だけを取り崩す
- 引当金残高6,000円<貸倒額8,000円 → 引当金6,000円を全額取り崩し、不足分2,000円は貸倒損失(費用)にする
- 前期末の在庫(期首棚卸高)を繰越商品から仕入に戻す/今期末に売れ残った在庫(期末棚卸高)を仕入から抜いて繰越商品にする

大問2 複合・応用 決算整理まとめ

次の決算整理事項を仕訳しなさい。1つの問題に2つの決算整理事項が含まれます。

No	取引	借方	貸方
1	決算にあたり、売上原価を仕入勘定で算定する(期首商品棚卸高12,000円、期末商品棚卸高16,000円)とともに、現金過不足(借方残高1,500円)は原因不明のため雑損として処理する		
2	決算にあたり、当座預金が貸方残高5,000円(借越)のため当座借越勘定へ振り替える。あわせて、売掛金残高250,000円の2%の貸倒れを見積もる(差額補充法、設定前残高1,000円)		
3	当座預金が貸方残高4,000円(借越)のため当座借越勘定へ振り替える。あわせて、得意先が倒産し、売掛金9,000円が回収不能となった(貸倒引当金の残高は5,000円)		

大問2 解答・解説

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	12,000	繰越商品	12,000
	繰越商品	16,000	仕入	16,000
	雑損	1,500	現金過不足	1,500
2	当座預金	5,000	当座借越	5,000
	貸倒引当金繰入	4,000	貸倒引当金	4,000
3	当座預金	4,000	当座借越	4,000
	貸倒引当金	5,000	売掛金	9,000
	貸倒損失	4,000		

1. 期首棚卸高12,000円を繰越商品から仕入に戻し、期末棚卸高16,000円を仕入から抜いて繰越商品にする。現金過不足は借方に1,500円残っているため、反対側の貸方に切ってゼロにし雑損(費用)を計上する
2. 当座預金のマイナス5,000円は当座借越(負債)に振り替える。見積額=250,000×2%=5,000。すでに1,000円あるので、差額の4,000円だけを追加計上する
3. 当座預金のマイナス4,000円は当座借越(負債)に振り替える。引当金残高5,000円<貸倒額9,000円 → 引当金5,000円を全額取り崩し、不足分4,000円は貸倒損失(費用)にする